



ITによる放牧管理の省力化

岡山県農林水産総合センター 畜産研究所 飼養技術研究室 生産性向上研究グループ 福島 成紀 滝本 英二

背景

放牧のメリット

- ・牛の健康増進
- ・飼料費の削減
- ・設備費かけず規模拡大
- ・飼養管理労力の軽減

問題点

- ・放牧場までの移動(時間、労力)が必要
- ・不十分な個体管理

目的

放牧の問題点を解消するために、インターネット回線等を利用したITにより、遠隔地からの操作で飼養管理を行う

放牧サポートシステムの開発

- (1) 音楽による集畜
- (2) 飼料給与の自動化
- (3) 捕獲の自動化
- (4) 牛の健康状態の観察



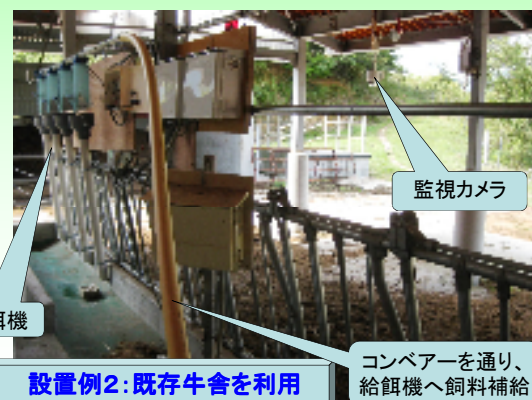
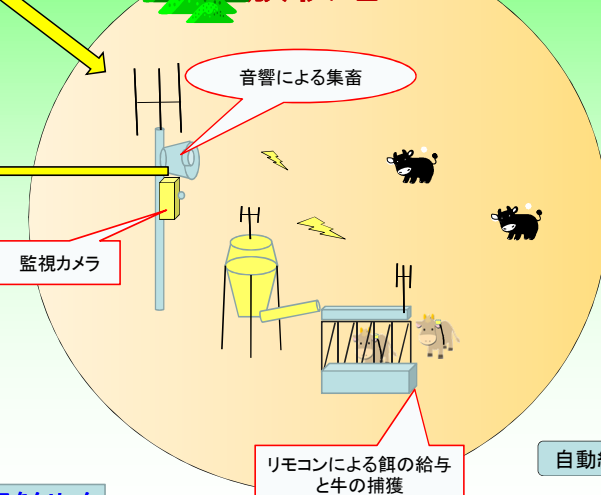
放牧サポートシステムとは

自宅or事務所



1. 遠隔放牧地にあるスピーカー、給餌機、連動スタンションを自宅もしくは事務所のパソコンから操作。
2. スピーカーから音楽が流れると、馴致された牛たちが集まる。給餌機から配合飼料を飼槽に落とし、連動スタンションをロックしておくことで、牛たちが捕獲される。
3. 監視カメラからの映像をパソコンで監視することで、牛たちが集まってくる様子や捕獲後の牛の状態をじっくり観察ができる。

放牧地



操作は、デスクトップのシステムコントローラをクリック

牛の健康状態の観察

監視カメラでいつでも観察

簡単に栄養度を評価

飼料摂取量を簡単に把握

給水器に設置したカラーパネルによる健康観察



牛の後方上部からのカメラ画像による観察



期待される効果

・周年放牧の実現 ・畜産経営の規模拡大 ・飼養管理の省力化

東北部(畜産サイド)

- ・黒毛和種生産地
- ・冬期放牧、飼料作物栽培が制約



耕畜連携

東南部(耕種サイド)

- ・温暖な気候での粗飼料生産
- ・耕作放棄地の有効活用

冬期放牧地の管理を委託する相手が牛の管理に不慣れな場合も考えられます。そこでこのサポートシステムを利用すれば、現地飼養管理者の負担軽減となり、また、東北の農家さん自身も監視できることから、委託の安心に繋がります。周年放牧実現の可能性の広がりが期待できます。